古文単語 活用形から見出し語へ ③

高校／活用表を見ずに、本文の形を引ける形にもどす

名前 _____

日付 _____

――線の語を、見出し語（終止形）にもどし、右の3つの枠に、左から順に見出し語・活用の種類・活用形を書きなさい。
この紙には活用表がありません。習った活用表を思い出し、語尾の形と、――線の語の下に続く語を手がかりに決めます。
――線の語のすぐ下が「。」で文が終わるときは、終止形です。
活用の種類は行まで書きます（例：動詞ナ行四段活用）。枠には2行に分けて書いてもかまいません。

1 用ありて行きたりとも、その事果てなば疾く帰るべし。久しく居たる、いとむつかし。
（徒然草・第百七十段）

見出し語	活用の種類	活用形

2 その子、孫までは、はふれにたれど、なほなまめかし。（徒然草・第一段）

見出し語	活用の種類	活用形

3 これを学ばむをば、いたづらなる人といふべからず。
（徒然草・第百二十二段）

見出し語	活用の種類	活用形

4 さがなき童どもの仕りける、奇怪に候ことなり。
（徒然草・第二百三十六段）

見出し語	活用の種類	活用形

5 六位の外記康綱、衣被の女房をかたらひて、かの宣命をもたせて、しのびやかに奉らせけり。
（徒然草・第百一段）

見出し語	活用の種類	活用形

6 次ざまの人は、あからさまに立ち出でても、興ありつることとて、息もつぎあへず語り興ずるぞかし。
（徒然草・第五十六段）

見出し語	活用の種類	活用形

7 八重桜は異様のものなり。いとこちたくねぢけたり。植ゑずともありなむ。（徒然草・第百三十九段）

見出し語	活用の種類	活用形

8 「子安貝とらんと思しめさば、たばかり申さん。」
（竹取物語）

見出し語	活用の種類	活用形

9 公には、「筑紫の国に湯あみにまからん。」
（竹取物語）

見出し語	活用の種類	活用形

10 その後翁・嫗、血の涙を流してまどへどかひなし。
（竹取物語）

見出し語	活用の種類	活用形

いちごドリル プリント

つづきの無料プリント
「古文単語プリント」のプリント一覧がひらきます